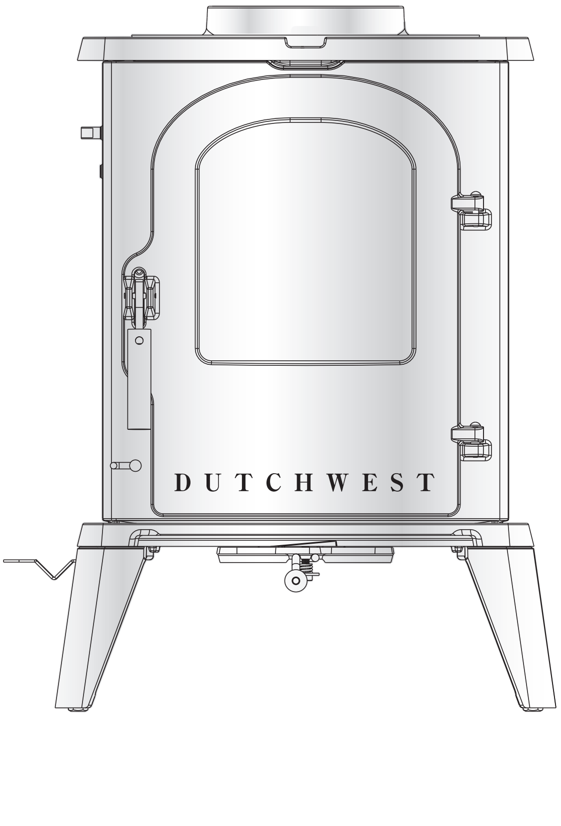
EST. 1974
DUTCHWEST
BY VERMONT CASTINGS

DUTCHWEST “BETHEL”

ダッチウエスト ベセル

据え付け・取り扱い説明書



安全のために

据え付けや運転を行う前に、必ずこの説明書を最後までお読みください。このストーブは、適切な据え付け、運転、維持がされている限り安全にご使用になれます。説明書の指示が守られなかった場合、火災が発生し、資産の損害や怪我、あるいは人命の喪失を引き起こす可能性があります。

この説明書は捨てずに必ず保存しておいてください。

はじめに

この度は、ダッチウエスト・ベセルをお買い上げいただき、誠に有難うございます。本商品は厳選された材料により製造させた鋳物ストーブです。当説明書を理解いただき使用方法、メンテナンスを守っていただければ、長期に渡りご使用いただくことができます。

ストーブの据付は専門業者に行ってもらうよう、お勧めいたします。ご自分で行う場合は専門業者のアドバイスを仰ぎながら行うようにして下さい。
また、火災保険の適用条件について、保険会社に確認されておくこともお勧めいたします。

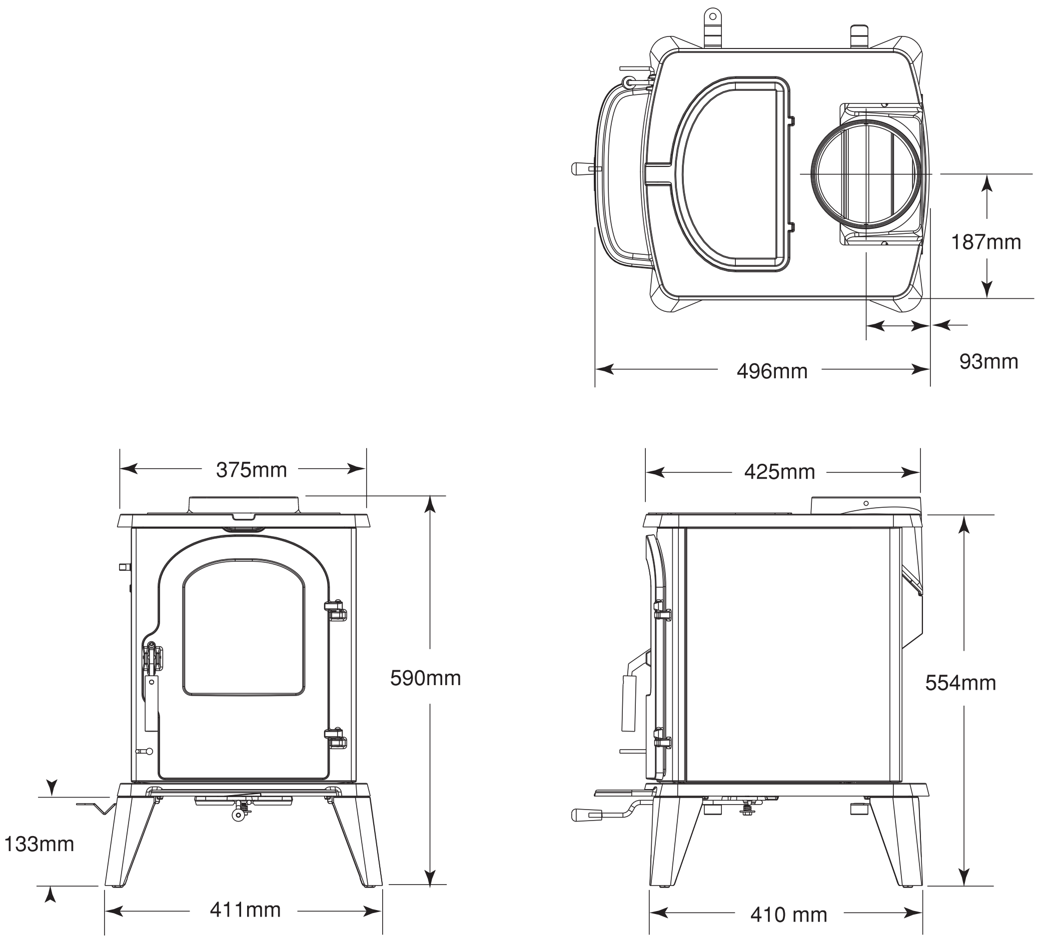
DUTCHWEST BETHEL

目次

●仕　　様……1
●安全距離……2
●組み立て方法……3
●操　　作……5
●着火と継続燃焼……7
●ドラフト管理……9
●メンテナンス……10
●分解図＆パーツリスト……13

組み立てやご使用の前に、必ずこの説明書を最後までお読みください。説明書の指示が守られなかった場合、火災が発生し、資産の損害や怪我、あるいは人命の喪失を引き起こす可能性があります。この説明書は、今後のご使用の際に簡単に見ることができるよう、身近なところに保管してください。

仕 様



ダッチウエストベセル

最大薪長さ	30cm	暖房面積 [2]	～65㎡
最大燃焼時間	5時間	重量	70kg
最大熱出力 [1]	4965Kcal	薪投入口	正面、トップ
排気煙量	5.5g/hr	煙突取り付け位置	上、後ろ
燃焼効率	73.4%	空気調節	1箇所

図1　ダッチウエスト“ベセル”の仕様

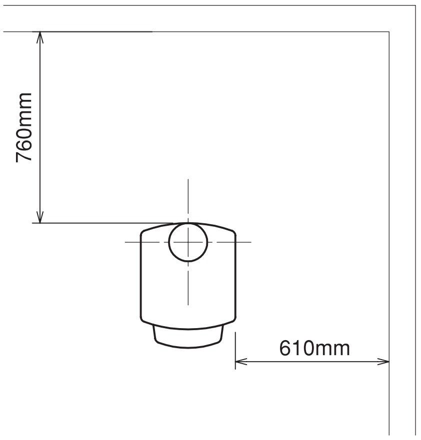
1）最大出力はバーモント工場実験室において、よく乾燥した薪を使用したテストで得られた数値です。数値はストーブの運転方法、薪の種類、薪に含まれる水分の割合などの要因によって異なります。

2）この数値は、アメリカの建築法に基づいて建てられた家屋で、アメリカ東部の典型的な冬の気候条件の下で計算されたものです。お客様の家がこの基準以下の建て方であったり、冬の寒さがもっと厳しい地域にある場合は、これらの数値が適用されないことがあります。

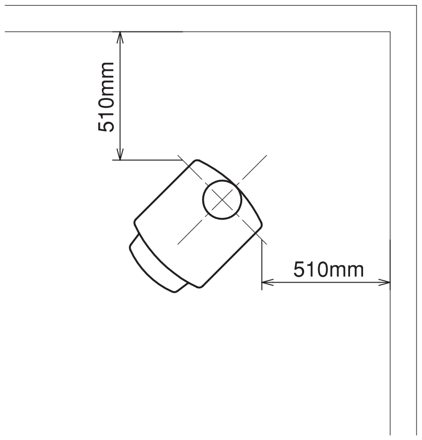
安全距離

〈耐火処理されていない場合〉

●壁行に設置

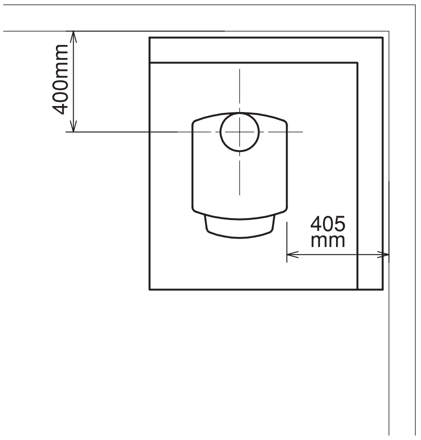


●コーナー設置

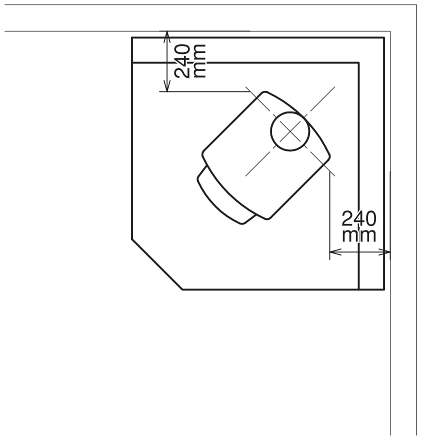


〈耐火処理されている場合〉

●壁行に設置



●コーナー設置



※耐火処理されている壁とは、可燃材と不燃材の間に空気層25mm以上を設けた場合をさします。
※ストーブの下にも耐火処理が必要です。可燃物の上に直接設置した場合は輻射熱により、火災の原因となる危険性があります。

重要

以上の寸法が守られずに設置された場合は、炭化など火災につながる危険があります。

組み立て方法

このストーブは、いくつかの組み立て作業が必要です。下記の手順に従い、正確に組み立てを行ってください。

開梱

当商品は非常に重量があります。けがのないように、またストーブを傷つけることのないように、慎重に取り扱いして下さい。
まず火室内に納められている部品を全て取り出し、下記の部品が入っているか確認してください。

●梱包内容
・ハンドリフター×1
・ハンドル×2
・レンチ（大）×1
・レンチ（小）×1
・マルチファンクションツール×1

設置場所

本体は平らな場所に設置して下さい。不安定な場所での設置は転倒や脚の破損の原因となります。
引火性のある液体（ガソリン、灯油など）やスプレー缶などを本体の上や近くに置かないでください。爆発や引火による火災の原因になることがあります。

準備

組み立ての間は、クッキングトップ（天板トップ）を持ち上げ、慎重に本体から取り外してください。
火室内より、木片パッケージ材を取り出してください。
フルーカラー部の、輸送用保護材を取り外してください。
ドアに固定されているハンドリフターを外してください（12図）。

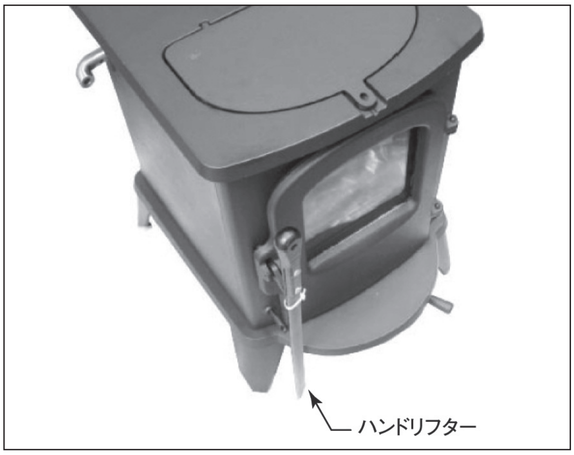


図12 前面に固定されたハンドリフターを外してください。

ドアハンドル

ドアハンドルは加熱防止のため、あえて取り外し式となっております。通常はホルダーに収納し、ドアを開けるときに使用します。ハンドルに埋め込まれているセットスクリューで固定することもできます。いずれにしろ、ドアを開ける、薪をくべる、或いはドアを閉める際はストーブ用革手袋等の装着をお勧めいたします。

フルーカラーについて

もし煙突の上出し、後ろ出しを変更する場合は、フルーカラーを留めている2つのネジを外し、向きを変えた後、再度ネジで固定して下さい（13、14図）。この際、本体に接着してあるガスケットに損傷を与えないよう、ご注意ください。

また煙突とフルーカラーの接続部はタッピングネジ2ケで留めてください。予め煙突に小さめのした穴を開けておくと、作業が容易になります。

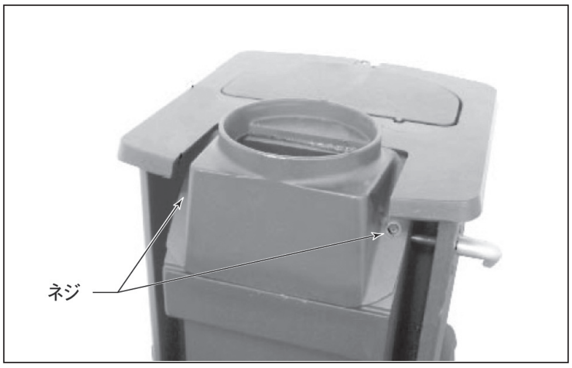


図13

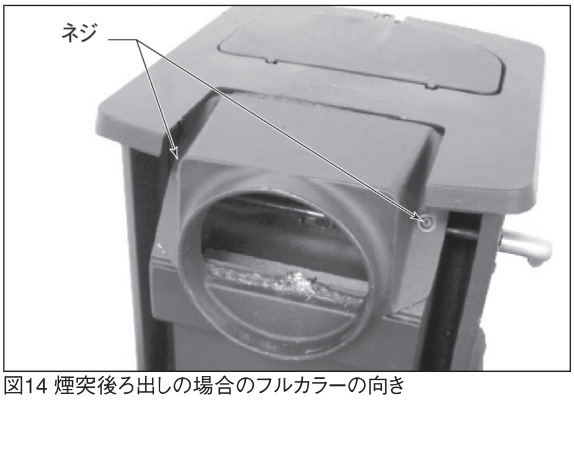


図14 煙突後ろ出しの場合のフルカラーの向き

燃料の違いによる部品の取り外し、向き変更

ベセルは薪のほか、ブリケット、石炭、他の殆どの固形燃料の燃焼が可能です。ただし、塊の小さいものは、好ましくありません。また、コークスは、温度が上がりすぎてストーブを傷めることがありますので、ご使用になれません。

石炭燃焼時は、部品の取り外しや向き変更が必要になりますので、効率良い燃焼のため、以下の事項をお守りください。
火室内グレートの上に設置されるハースプレートは石炭燃焼時は使用しませんので、外してください。さらに、灰受け皿の下に位置するボトムプレートはリバーシブルになっていますが、石炭燃焼時は「バケツ」マークが手前になるよう、向きを変更してください。
ちなみに、薪燃焼時は「木」のマークが手前にくるよう設置しますが、この場合は火室内に入り込む空気が窓の上から下に向かって煤を払うように流れます（エアーウォッシュ機能）（15図）。

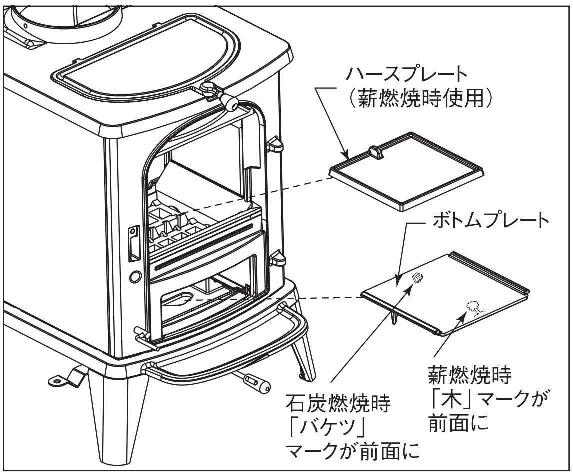


図15

操作

ベセルの操作は極めてシンプルです。空気の流れはダンパー、プライマリーエアーコントロール2つの機能により制御され、ストーブ背面にある2次燃焼室内で煙の再燃焼が促されます。一定温度以上の高温が続いたとき2次燃焼状態に入り、より効率的な燃焼、長時間燃焼を実現し、同時に煤、クレオソートの発生を防ぎます。

プライマリーエアーコントロール

ストーブ本体の右下にあるプライマリーエアーコントロールレバーは、火室内に入り込む空気の量を調節、火力をコントロールします。レバーを右に動かすと、空気の取り入れは最大になり、熱出力もあがりますが、当然薪の消費量も増えます。レバーを左に動かすほど、空気の取り入れ量は減っていきます（16図）。

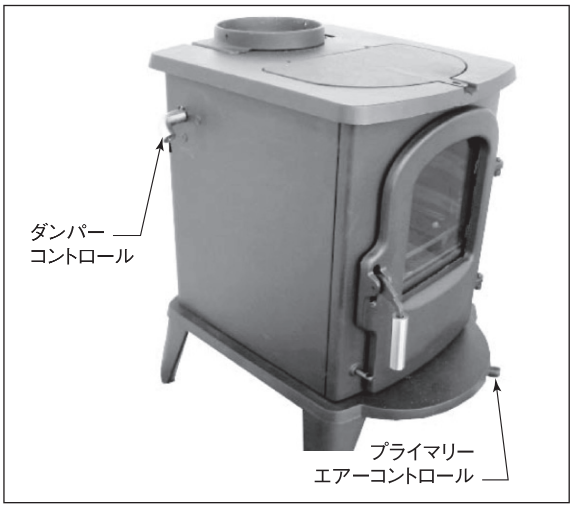


図16

ダンパー

本体左サイド上部に位置するダンパーハンドルは、火室内ダンパープレートの開閉を操作します。取り外し式のドアハンドルをご使用ください（17図）。
手前から奥にハンドルをおろすように動かすと、ダンパーは開きます。この位置では、煙突と火室が直結、煙突内に発生しているドラフト（空気の上昇気流）を最大限利用でき、着火、弱火から強火への移行がより楽に行えます。
また煙の逆流を防ぐため、薪投入時にドア、クッキングトップを開ける際は必ず開いてください。
ハンドルを手前に引いてくると、ダンパーは閉じます。この位置では、煙は直接煙突に流れることはなく、2次燃焼室を通ります。流れていく煙が高温にさらされ再度燃焼されるため、ひじょうに効率のよい燃焼状態に入ります。燃焼時間も延びます。「閉」への移行の際は、最後まで、ぐっと力を込めるように、押し上げてください。
ちなみにダンパーは「開」か「閉」のどちらかのポジションしかありません。中間のポジションは存在しませんので、ご注意ください。

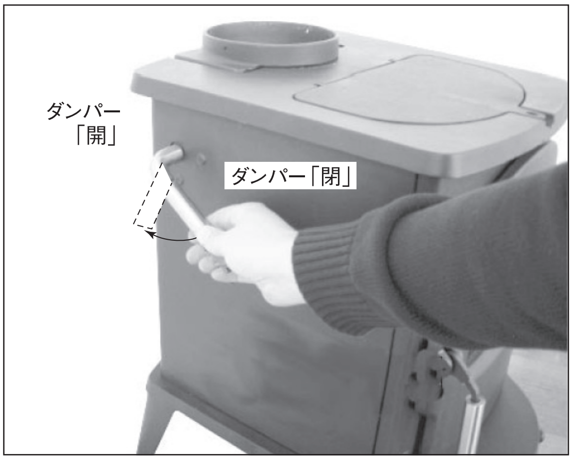


図17 ダンパーの開閉

注意 **通常燃焼時はダンパーを閉じます。開けたまま長時間焚くと、過燃焼により火室内を損傷させることがありますのでご注意ください。**

ドアガラス

ベセルのドアガラスは外側に反射コーティングが施されています。これにより室内の低い温度を外側で反射し、内側に影響を及ばないため火室内の高温が維持されます。

フロントグレート

フロントグレートは掃除やメンテナンスのため、取り外せるようになっております。しかしこれは、薪がガラスにあたるのを防ぐためのものですので、燃焼時は必ず装着した状態でご使用ください。

フロントグレートバーは平行に持ち上げ、正面から取り出します（18図）。

図18 フロントグレートバーの取り外し

燃料の供給

薪の投入は、クッキングトップ、フロントドアからできます。燃焼状態に入っている最中は、クッキングトップからの投入がやりやすいでしょう。煙が部屋に戻ってくるのを防ぐため、クッキングトップ、フロントドアを開ける前にダンパーを開いて下さい。
また操作の際には、ストーブ用革手袋のご使用をお勧めします。
ドアの開閉時はハンドルを使用し、作業終了後はドアが確実に閉まっているか、確認して下さい。隙間による空気の余分な取り込みは過燃焼の原因になります。
また作業後はダンパーの閉め忘れにご注意ください。

効果的なエアーコントロールの設定

理想的なエアーコントロールに、1つの明快な答えはありません。ストーブの燃焼はドラフト（煙突内の上昇気流）、気候、薪の状態など様々な外的要因に左右されるので、毎回違った結果になる、ともいえます。
最初は室温含め、各条件を記録することをお勧めします。やがて経験により、あなたのストーブ設置環境にふさわしいエアー設定を見つけ出すことができるでしょう。

より長い燃焼のためには、エアーの取り入れ量を極めて最小限にまで絞る必要があります。
薪ストーブは煙突内の正常なドラフト（上昇気流）が確保されていれば、燃焼に多くの空気を必要とするものではありません。ですから、いったん薪に完全に火がついて通常の燃焼状態が確保されれば、必要以上の空気の取り入れは必要がないばかりか、温度が上がりすぎて火室内を傷める原因ともなりますので、注意してください。

薪の上手な焚き方

薪を焚くという作業は、科学というよりも芸術に近いと言われています。良質の乾いた薪を使い、ストーブの空気取り込みシステムを良く理解すれば、薪を焚く技術は簡単に身に付けることができます。

燃料には品質の良い薪を

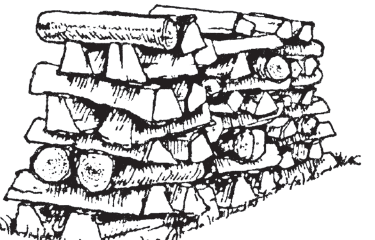
このストーブは、天然の薪、石炭、ブリケットなどの固形燃料を焚くように設計されていますので、それ以外の燃料は使用しないでください。圧縮加工された木材、塗装された木、カラー印刷された新聞紙などは燃やさないでください。

注意 針葉樹や生木に比べて、適度に風にさらされて良く乾燥した広葉樹は、燃焼効率が非常に良く、排気ガスはずっと少なくなります。生木は、水分を含んだクレオソートが多く発生しますので、絶対に燃やさないでください。

最高の薪は、適切に乾燥させたナラ、カエデ、カバ、クヌギなどです。割った薪は屋外に積み、カバーをかけ、最低1年間は乾燥させてください。広葉樹が手に入らない場合は、カラマツ、アカマツ、スギ、ヒノキなどの針葉樹をしっかり乾燥させてから焚いてください。薪の長さは、ご使用になるストーブに合わせて切ってください。2年以上乾燥させた薪は使用しないでください。灰色がかっているような古い薪は、燃焼速度が速くなりすぎ、ストーブの性能が十分に発揮されないうちに燃え尽きてしまいます。

薪を保管する際は、乾燥を保つために、必ずカバーをかけてください。また、どんなに短い間であっても、薪はストーブから安全な距離をとって保管してください。ストーブの周囲には、薪を投入したり、灰を出したりする作業がしやすいように、ゆとりを持ったスペースを確保してください。

最良の薪は、少なくとも1年間、屋外で乾燥させたものです。



着火と継続燃焼方法

慣らし運転

鋳物は耐熱性においては極めて頑丈な、優れた材料です。しかし一方で衝撃や、急激な温度変化には強くありません。
鋳物は加えられる熱により伸縮を繰り返します。最初の燃焼の際は、温度を上げず、終了します。以下の1～3のステップを3,4回繰り返し、「慣らし」をしてください。

2本のフロントグレートバーが装着されていることを確認して下さい。

ステップ1

ダンパーを開き、プライマリーエアーコントロールレバーも全開にします。

ステップ2

火室に丸めた新聞紙（或いは着火剤）をおき、この上によく乾燥した、指の幅大に割った焚きつけを6～8本載せ、さらにその上に25～50mmほどに割った薪を2、3本載せます（19図）。

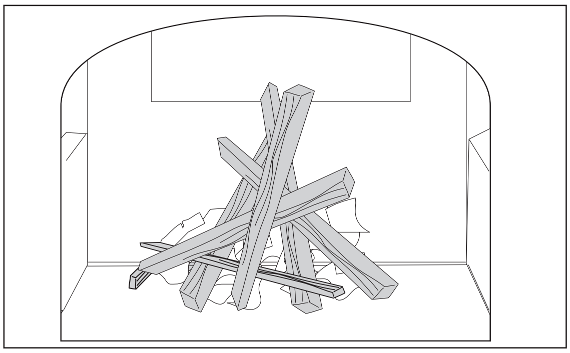


図19

着火には絶対に化学薬品や薬剤を使用しないで下さい。ガソリンやエンジンオイルのような燃えやすい液体や、生ごみなどを燃やさないで下さい。また、ランタン用の燃料、灯油も使用しないでください。

ステップ3

新聞紙（或いは着火剤）に火をつけ、ドアを閉めます。10～15分くらいで燃焼が安定してきます。少しずつ薪を足していくと、徐々に火が大きくなります。薪の下に熾きが溜まるまで燃やし続けてください（20,21図）。

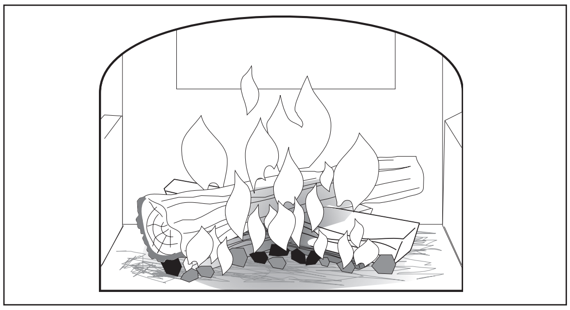


図20

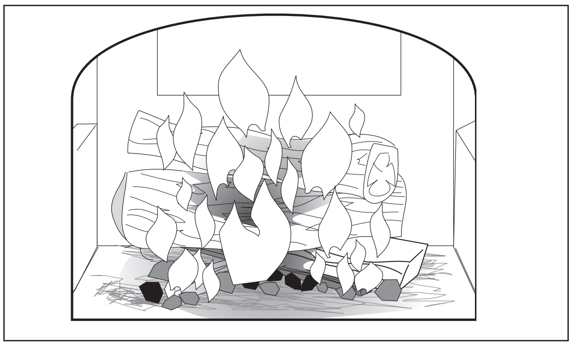


図21

ヒント：
煙突が冷えている場合は、事前に煙突を暖め、十分な吸い込み（ドラフト）を発生させる必要があります。その場合、新しい新聞紙を2，3枚丸めて、焚きつけの上や後方に置き、火をつけてドアを閉めます。煙突が暖まると、ドラフトが発生します。
一度で吸引力がつかない場合は、２度、3度繰り返します。

慣らし運転の最中は、ストーブ温度計（オプション）の表示で260℃を超えることがないよう、注意が必要です。

また最初の数回は、ストーブ、或いは煙突表面から煙が出ることがありますが、これは表面の塗料が焼けることで発生します。害はありませんが、十分な部屋の換気をおすすめします。

通常燃焼への移行

ステップ4
火が安定して燃えてきたら、グレート上に熾きができるまで薪を足して下さい。火床は約5〜7.5cmほど必要です。良い火床は、ダンパーを閉じたあと、燃焼を継続されるのに必要です。

ステップ5
熾きの火床が形成されたら、ダンパーを閉じます。オプションの温度計表示で150〜200℃あたりが目安です。

ステップ6
新しく投入した薪に完全に火が回るよう、エアーコントロールレバー最大のまま、15〜20分燃焼させます。薪が安定して燃えるようになったら、望みの熱出力が得られるよう、エアーコントロールを調整してください。

マグネット式のストーブ温度計（オプション）天板に取り付けておくことをお勧めいたします。
最適な火室内の温度は、通常上記温度計表示の400〜650˚F（190〜330℃）の範囲内です。これ以上の温度になりますと、鋳鉄の組織が分解され、鋳物自体が割れてしまいます。逆に、これ以下の温度になりますとクレオソートが発生し、煙突内に付着してしまいます。このように、火室内の温度は、ストーブや煙突に重大な影響を及ぼしますので、常に細心の注意を払って温度管理を行ってください。ストーブの熱出力や燃焼時間の調節は、空気の量を調節することにより行えますが、一度に投入する薪の量を調節することによっても行えます。

薪の補給と火力の回復

熾きがたくさんあるうちに薪を追加すると、すぐに火力を回復することができます。細い薪を一緒に足すと、あっという間に高温にすることができます。
薪を追加するときは以下の手順で行ってください。

1. プライマリーエアーコントロールレバーを全開。
2. ダンパーを開きます。
3. 灰受け皿の灰の量をチェックし、灰が多すぎるときは捨ててください。
4. ハンドリフターを使い火床をかき回し、空気にさらします。（このときロッカーグレートを揺すらないでください。せっかくの良質な火床が灰受けに落ちてしまいます）クッキングトップを開ける時はハンドリフターをお使いください。
5. 薪を足す
6. ダンパーを閉じ、燃焼状態が回復したら、プライマリーエアーコントロールを元のセッティングに戻してください。良質な熾きの火床と適切に乾燥された薪であれば、たちどころに、燃焼は回復されるはずです。

ロッカーグレートの操作

1. ロッカーグレートの操作はマルチファンクションツールを使用します（22図）。
2. ストーブ前面左側のシェーカーの穴に差し込み、前後に揺らし、グレートの灰を灰受け皿に落とします。

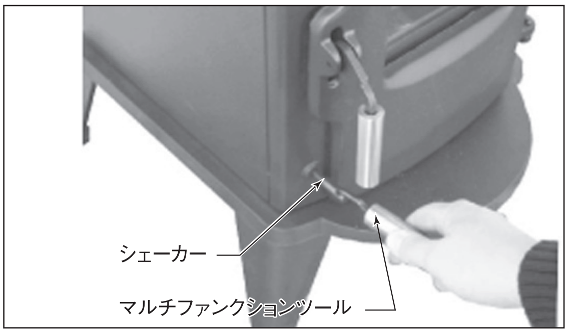


図22

灰の処理

灰を取り出す際は、ストーブ用革手袋をはめて行ってください。燃料を補給する際は灰受け皿を点検し、いっぱいに溜まっている場合は捨ててください。灰受け皿を戻す前に、灰受け皿の横や奥にこぼれている灰もきれいに取り除いて下さい。
灰受け皿は定期的に空にして下さい。基本的な頻度は1〜3日に一度ですが、これは使用状況によって異なります。火力を高くすればするほど薪を消費しますので、灰が溜まるのもそれだけ早くなります。

ヒント：
グレートの灰は全て取り除かないでください。2〜3cmほど残しておきますと次の着火がしやすくなりますし、断熱効果が増し、さらにグレートの保護にもなります。

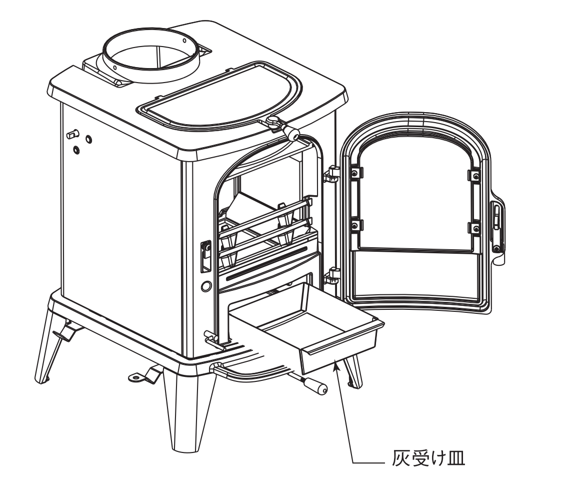


図22

安全な灰の処理方法

灰には熱い熾きが入っている場合がありますので、取り扱いには十分な注意が必要です。取り出した灰は、しっかりと蓋が閉まる金属製容器に入れ、屋外で保管してください。最終的な処理をするまでは、不燃性の床や地面に置き、可燃物との距離も十分に確保してください。灰は園芸用の肥料として利用できますが、完全に冷めたのを確認してから使用してください。

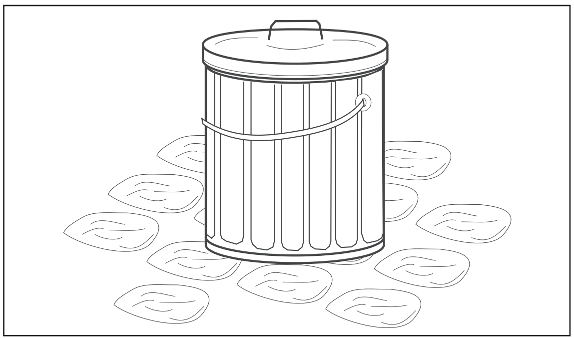


図12 熱い灰は非常に危険です。しっかりと蓋の閉まる金属性の容器で、屋外の安全な場所に保管しましょう。

注意 **ストーブの灰は掃除機で吸い取ってはいけません。灰は必ず指示された方法で取り除いてください。**

ドラフト管理

ストーブは、煙突、使用する人、燃料、家屋からなる、1つの総合的なシステムの一部だと思ってください。こうしたストーブ以外の要素が、ストーブの調子に大いに影響してくるのです。全ての要素の相性がよいと、ストーブは効果的に働きます。
薪ストーブの性能は、ドラフト（自然の通風力）次第です。ドラフトとは、煙突の先端部分で、排気ガスの温度が屋外の空気より高い（つまり、軽い）ときに起こる空気の動きです。温度差が大きければ大きいほど、ドラフトは強くなります。熱い排気ガスが煙突から上がると、吸引力が起こり、空気がストーブに引き込まれて燃焼空気となります。ストーブ本体の空気取込口を最大に開けて、強火で燃やしていると、ドラフトは強くなります。空気取込口から空気を多く取り込み、盛んに火を焚くとよいドラフトが発生しますが、この空気取込口は受け身であり、取り込む空気の量の調整はできますが、空気を積極的にストーブの中に送り込むことはできません。最近の薪ストーブは、燃焼用空気の量を調整することができます。こうした薪ストーブの効率は、煙を暖かいまま屋外に排出できるか否かで変わってきます。煙突が鉄製か、レンガ製か、家の内部にあるか外部に出ているのか、ストーブのフルーカラーにぴったりはまるか否かといった煙突の特徴は、強力なドラフトを早く起こせるか、最適な温度を長時間維持できるかに、大きな影響を与えます。次に様々な煙突システムの影響と、それがストーブの性能に与える影響についてご紹介いたします。

●レンガや石造りの煙突

レンガや石は伝統的な煙突素材ですが、燃焼が調整できる近代的な薪ストーブを使うには不向きです。これらの煙突は、「熱の落ち込み」がはっきりと出ます。長期間燃やしていると、レンガや石が熱を吸収・蓄積しますが、煙突には多量のレンガや石が使用されているので、これら全てが強いドラフトを起こせるまで熱くなるまでには、時間がかかり過ぎます。冷えた煙突は、排気ガスの温度を上げないどころか、ドラフトの力を消してしまいます。もしも、煙突が屋外に出ていたり、煙突の断面積がストーブの排気口よりも大きい場合は、この問題はさらに深刻になります。

●スチール製の煙突

工場製のスチール煙突のほとんどが、断熱効果のある多重構造になっています。内側の煙突は高温になりますが、内側煙突と外側煙突の間に、高性能な断熱材が充填されているため、外側の煙突には熱が伝わらず、周囲の構造物を高温から守り、また、煙突内を通る煙の温度も下げません。
スチール煙突の内側の煙突は、レンガや石の煙突にくらべ、非常に早く温度が上昇します。外観的にはレンガや石の煙突の方が風情がありますが、スチール煙突の方が耐久性、性能とも非常に高いのです。

●煙突の設置場所

煙突の機能は、煙を熱い状態のまま排出することですので、煙突は家の中にある方がベストです。煙突を家の中に設置すると、外気の影響を受けることもなくなりますし、煙突からの放射熱が家の中に発散されることにもなります。屋外に逃げる熱が少ないということは、ストーブの熱のロスが少なくて済むということにもなります。

●煙突のサイズ

ストーブの煙突のサイズは、ストーブのフルーカラーと同じ大きさでなくてはなりません。煙突がフルーカラーよりも大きいと、排気ガスが薄まり、上昇気流が失われます。6″のフルーカラー（28平方インチ）のストーブに、10″×10″の煙突をつなげると、排気ガスは最初の量の1/3に薄まります。その結果、ガスの温度が下がり、ドラフトも弱まります。また、大きすぎる煙突が屋外にある場合は、外気で冷やされますので、さらに煙の温度を下げてしまいます。
一般的に、レンガや石でできた煙突は、ストーブに対して大きすぎます。このような煙突は暖まるまでにかなりの時間がかかり、その結果、ストーブが思い通りに温度が上がらないということになります。大きすぎる煙突に対する一番よい解決方法は、ストーブのフルーカラーと同じサイズの、断熱式スチール煙突ライナーを取り付けることです。このライナーをつけることにより、排気ガスを暖かく保つことができますので、強力なドラフトを発生させることができます。断熱式ではないライナーを取り付けることもできますが、この場合、ライナーの周りの空気を暖めるのに時間がかかりますので、その間の熱エネルギーを消耗することになってしまいます。

●煙突のレイアウト

煙突の曲がりは、ストーブから煙突トップに至る排気の流れにとって、障害になります。理想的なレイアウトは、ストーブから煙突トップまで曲がりがなく、まっすぐ上に伸びるタイプです。ストーブの性能が最もよく発揮され、メンテナンスも容易ですので、できるだけこのようなレイアウトにしてください。どうしても曲がりが必要な場合は、ストーブのフルーカラーと、二重煙突の接続部の中間に曲がりがくるようにしてください。このように配置した方が、排気ガスのスピードが上がり、スピードアップした状態で曲がりを通過しますので、スムーズな排気ができるようになります。

●煙突の共有について

ストーブの煙突は、ストーブ専用とし、他の機器と共有させないでください。ドラフトは自然なエネルギーのため、抵抗が少ない方に進んでしまいます。ストーブの煙突が別の暖炉や、その他の機器に接続されていると、これらの機器からも空気を引き込んでしまいます。このようにして取り込まれた余分な空気の流れは、排気ガスの温度を下げ、ドラフトを失わせ、クレオソートをより多く発生させてしまいます。多くの機器を接続した煙突は、ホースに穴が開いた掃除機のようなものです。最悪の場合、他の機器のドラフトが負のドラフトを起こし、その結果、危険なドラフトの逆流が起こってしまいます。

メンテナンス

ストーブのお手入れ

●鋳物部分の手入れ

乾いた布で時々ほこりを拭き取りますと、鋳物の表面を常に新しい状態に保つことができます。
また、必要に応じて、表面のペイントを補修することもできます。この場合、必ずストーブが完全に冷めたのを確認してから行ってください。まず、補修したい表面をワイヤーブラシなどできれいに掃除をしてください。真鍮部品やガラスなどにはマスキングテープを貼り、塗料がつかないように保護してください。その後、専用の耐熱塗料を使用し、塗装を行ってください。屋内で作業をする場合は、十分に換気を行ってください。塗装は、厚塗りを1回するよりも、薄塗りを2回した方が、きれいに仕上がります。
付着した水分、塩分は錆の原因になりますので放置せず取り除いてください。

●ガラスの清掃

ガラスに付着した汚れのほとんどは、火力が高温になるにしたがい焼け落ちてしまいます。ガラスに付着した汚れを拭き取る場合は、乾いた新聞紙を丸めたものを使用してください。絶対に熱くなっているガラスを、液体のクリーナーで掃除しないでください。それでも汚れが取れない場合は、以下の手順で清掃してください。
・ガラスが完全に冷めていることを確認してください。
・専用のガラスクリーナーを塗り、乾いた布で拭き取ってください。
・ガラスを完全に乾かしてください。

●ガラスの交換

ガラス交換の際は純正部品を使用していただくよう、お願い致します。ガラスはドアとの間に3枚の平らなガラスガスケットを挟み、2箇所のクリップで留めるような形になっています

1. クリップを外す（ネジ2つで留まっています）。
2. ガラスを外し、ガスケットを点検して下さい。必要があれば、ガスケットを交換します。新しいガスケットを取り付ける際は、溝の汚れがないか確認してください。
3. ガラスを戻し、クリップで留めますが、ガラスは熱による伸縮の余地を与えてやらなければなりません。きつく締めすぎないよう、ご注意下さい。要領としては、一度きつくなるまで締めたネジを若干緩めるような要領です。

●ガスケット交換

ガスケットはへたっているところがあると、そこから空気が漏れ、このストーブの特徴である気密性が損なわれることがあります。ドアなど可動部は特に、他の部分より早くへたりますので、定期的なチェック、必要であれば交換をお願いします。

ガスケットサイズは以下の通りです。

1/4ガスケット	ガラス
3/8ガスケット	フロントドア、トップ（天板）
5/16ガスケット	フルーカラー
グリドルガスケット	グリドル

ガスケットの交換はストーブが完全に冷えている状態で行ってください。以下の手順に従い、作業してください。

1. 現在ついているガスケットの端を、しっかり掴んで引っ張り、取り除きます。
2. 安全メガネをかけ、ワイヤーブラシかドライバーの先端を使って、溝の中に残っているセメントやガスケットのカスを取り除いてください（25図）。
3. ガスケットを溝にあて、適度な長さで切ってください（25～50ミリ余裕をみてください）。
4. 古いセメントを取り除いた溝に、耐火セメントをビーズ状に注入します（26図）。
5. ガスケットを接着し、端と端がぴたり合うように、余った部分を切り落とします。ガスケット同士が重なることの内容、ご注意下さい。
6. 一度ドアを閉め、溝の周囲にはみ出したセメントを取り除いて下さい。
7. 再度ドアを閉め手、24時間以上常温で乾燥させて下さい。

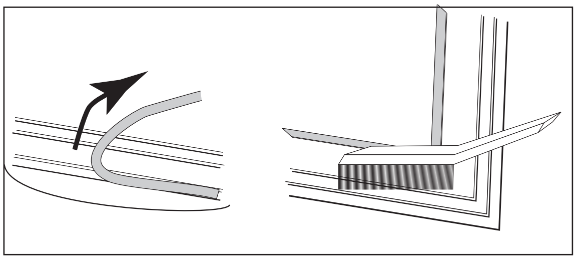


図25 ガスケットを外し、溝に残ったセメントをブラシ等で
きれいに取り除く

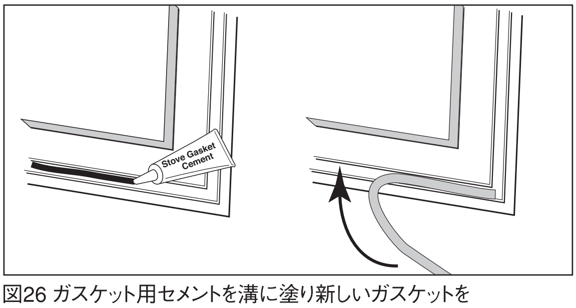


図26 ガスケット用セメントを溝に塗り新しいガスケットを
押し込むようにつけます

メンテナンススケジュール

■ストーブ

●日常のお手入れ

・灰は、灰受皿に一杯になる前に取り除いてください。最低1日に1回は灰の溜まり具合を点検してください。

・ストーブの周りをきれいに片付け、近くに可燃性のものを置かないようにしてください。

●2ヶ月ごとのお手入れ

・ドアラッチが適切に締まっているか点検してください。
ガスケットは、一定期間が経過するとつぶれてしまいますので、必要に応じてドアラッチの締まり具合を調整してください。

・脚のボルトとヒートシールドのネジを点検し、必要に応じて締めてください。

●シーズン終了後のお手入れ

・ガスケットの減り具合を点検し、必要に応じて交換してください。

・火室内と灰受皿の灰を捨て、吸湿剤（猫のトイレの砂など）を入れて、ストーブ内部を乾燥させてください。

・火室後部にある再燃焼ボックスを取り外し、内部のススなどを取り除いてください。
この部分はとても壊れやすい素材でできていますので、取り扱いには十分注意してください。

・ダンパーロッドなどの可動部に潤滑油を塗ってください。
こうすることにより、ストーブを使用しない時期の錆付きを防止することができます。

・ストーブ内部の、各部品を固定しているボルトを一度ゆるめ、再度締め直してください。
長い期間この作業をしないと、ボルトが熱と錆で固着してしまい、外れなくなることがあります

・ストーブ内部に付着しているススやタールを、ワイヤーブラシなどで取り除いてください。
ススやタールが付着したまま放置すると、鋳鉄を傷める原因になります。

・ストーブ全体のほこりを取り除いてください。ストーブの表面にほこりがついていると、熱の発散が妨げられてしまいます。

・塗装が剥がれている場合は、純正の耐熱塗料で補修をしてください。

■煙突

●2週間ごとのお手入れ

・煙突内部を点検し、必要に応じて掃除をしてください。

●2ヶ月ごとのお手入れ

・煙突内部を点検してください。
とくに曲がりと水平部分はススが溜まりやすいので、念入りに点検し、必要に応じて掃除をしてください。

●シーズン終了後のお手入れ

・ストーブの口元からトップに至るまでの、全ての煙突を点検し、掃除を行ってください。
煙突に付着したクレオソートを放置しておくと、正常な燃焼を妨げるばかりか、煙突火災を引き起こす原因にもなります。

・煙突内部に異物（鳥など）が入らないように、煙突トップにアミやカバーを付けてください。

・各煙突部材を点検し、金具のゆるみや、シーリングの劣化などがあれば補修してください。
また、損傷がある場合は、新品と交換してください。

Dutchwest Japan
wood stoves & fireplaces

ダッチウエストジャパン株式会社
〒080-0010　北海道帯広市大通南28丁目4
フリーダイヤル 0120 0120-700027